

第1回障害者スポーツ指導員研修会・審判養成講習会「種目 陸上競技」記録

実施日：令和2年8月2日（日）8:50～12:10

会場：富山県総合体育センター 会議室

参加者：33名の障害者スポーツ指導員

【1】研修会・講習会の実施内容について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で障害者スポーツ関連の大会や各種研修会の多くが延期・中止となりました。このようなコロナ渦の中でも、感染予防対策を取りながら、効率よく行事の開催ができないかと検討を重ねました。そのような中、今年度は、障害者スポーツ指導員研修会と障害者スポーツ審判員養成講習会とをマッチングさせて実施することとしました。

スポーツ指導員の皆さんには、陸上競技の審判としての一般的な知識と障害者陸上の専門的な知識を理解していただく機会とし、次年度の障害者スポーツ大会「陸上競技会」での実務経験を積むことで、日本陸上競技連盟のB級審判資格を取得できる講習会としました。

尚、講師を務めていただきました北林先生から、障がい者スポーツ指導員を対象に、陸上競技の審判資格取得のための講習会の開催は全国的にも例がないと聞いております。

講義1 夏野義一 先生 【2020年度版 日本陸上競技連盟競技規則 総論】

コロナ感染対策で、飛沫感染防止のためのシールドを設置しての講義となりました。講義内容では、一般の陸上競技大会での話題に触れながら、講義が行われました。具体的には、競走競技におけるレーンの幅や走り幅跳びの踏切の位置、投てき競技の落下位置など、知っているようで知らないことなどをわかりやすく説明されました。

講義II 北林直哉 先生 【障害者スポーツ大会「陸上競技会」競技規則 概論】

「Zoom」を利用してのリモート配信で講義が行われました。大阪と富山が近い感じがしました。種目ごとの障害に応じたルールをわかりやすく説明されました。ネット環境の不具合が発生した時の対応など、主催者側も初めての経験だったことから、今後の課題となりました。

【3】参加者の感想文から（抜粋）

- ・指導員が競技で運営役員になった時は、障害者が自ら考え、自分でできることを増やすように指導していきたいと思った。
- ・障がい者スポーツ指導員を対象とした陸上競技の審判資格取得の講習会は、全国でも例を見ない。日本で初めてだと知った。

- ・障害者スポーツは様々なハンディを抱えた人が競技に参加している。スポーツにはどのような人でも参加できるというメリットがある。今後、障害者スポーツがさらに発展していくことを願いたい。
- ・今回参加された方々が一人でも多く審判資格を取得され、今後の障害者スポーツ大会「陸上競技会」でその力を発揮できたら良いと考えた。
- ・丁寧に説明されたのでルールに関する確認ができた。
- ・陸上競技大会には思ったよりたくさんの競技役員がかかっているとわかった。また、障害者陸上競技会では、改めてルールの確認ができた。
- ・審判の部署もたくさんあり、規則も毎年改訂されるなどルールも細かく、生半可な知識や技術では審判ができないと学んだ。
- ・審判員の高齢化が進むと同時に、審判員の養成も難しくなっている。競技種目は異なるが、スポーツの共通の課題だと感じた。
- ・講義をリモート配信で試みたのがよかった。今後の会議や研修で大いに活用できると思った。
- ・陸上競技の審判も障害者陸上も、覚えることがたくさんある。まずは基本的な土台をしっかり頭に入れないと動けないと感じた。
- ・競技者、審判、補助員が連携しながら、健常者も障害のある人も楽しく競技をやっている意識を持つことができた。受講した内容を普段の活動に生かしたいと思った。
- ・障害者スポーツを行う上で、障害区分や運営の行い方、必要なサポートなどたくさん理解しなくてはならないことを改めて知ることができた。次年度の実技では、自分の目で確認しながら取り組んでいきたいと思った。
- ・中身が濃かった。

北林先生の言葉

障がい者スポーツ指導員の方々が、障害を持った人たちに積極的に社会的参加を促すという目的をもって指導していただきたい。